

HPへの貼り付け: 140ピクセル

あ

明日は東京に出てゆくか
らは 何が何でも勝たね
ばならぬ(王将・西條八十)

任侠いろは歌留多

い

意地の筋金 度胸のよさ
も いつか落ち目の 三
度笠 (名月赤城山・矢島寵児)

任侠いろは歌留多

う

生まれた土地は荒れ放題
今の世の中 右も左も真
暗闇じゃござんせんか
(傷だらけの人生・藤田まこと)

任侠いろは歌留多

え

え

任侠いろは歌留多

お

おれも生きたや 仁吉の
ように 義理と人情の
この世界
(人生劇場・佐藤惣之助)

任侠いろは歌留多

か

風が変われば おいらも
変わる 仁義双六丁半か
けて 渡るやくざのたよ
りなせ(旅笠道中・藤田まこと)

任侠いろは歌留多

き

義理が廃れば この世は
闇だ なまじとめるな
夜の雨
(人生劇場・佐藤惣之助)

任侠いろは歌留多

く

く

任侠いろは歌留多

け

け

任侠いろは歌留多

こ

ご一緒ねがいます
(昭和残侠伝 死んで貰います)

任侠いろは歌留多

そ

任侠いろは歌留多

せ

任侠いろは歌留多

す

任侠いろは歌留多

好いた女房に みくだり
はんを 投げて長どす
永の旅(妻恋道中・藤田まこと)

し

任侠いろは歌留多

白を黒だと 言わせるこ
とも 百も承知で やく
ざな稼業 (昭和残侠伝唐獅子
牡丹・水城一狼・佐伯清)

さ

任侠いろは歌留多

と

任侠いろは歌留多

時世時節は 変わるとま
まよ 吉良の仁吉は 男
じゃないか(人生劇場・佐藤
惣之助)

て

任侠いろは歌留多

つ

任侠いろは歌留多

つもり重ねた不孝のかずと
なんと詫びよかおふくろに
背中で泣いてる唐獅子牡丹(昭
和残侠伝唐獅子牡丹・水城一狼)

ち

任侠いろは歌留多

た

任侠いろは歌留多

の

残るものは僅かに天祐や神風を
恃んでひたすら負けたくない
という哀れな望みだけになってし
まった(人生劇場・尾崎士郎)

任侠いろは歌留多

ね

ね

任侠いろは歌留多

ぬ

ぬ

任侠いろは歌留多

に

任侠の精神はケチな根性
の中には影さえも残して
はいない(人生劇場・尾崎士郎)

任侠いろは歌留多

な

泣いてなるかと心に誓や 誓う
矢先にまたほろり 馬鹿を承知
のおいらの胸を 何故に泣かす
か今朝の風(妻恋道中・藤田まこと)

任侠いろは歌留多

ほ

ほ

任侠いろは歌留多

へ

へ

任侠いろは歌留多

ふ

吹けば飛ぶよな将棋の駒
に 賭けた命を笑わば笑
え(王将・西條八十)

任侠いろは歌留多

ひ

ひとつ越えればまたひとつ
つづく浮世のなみだ
坂(人生峠・宮原哲夫)

任侠いろは歌留多

は

腹で泣いても弱気は見せ
ぬ 辛い心をさぐるな月
よ(浪花の勝負師・三浦康照)

任侠いろは歌留多

も

物のはずみほど恐ろしいもの
はねえというが、はずみ
は二度とふたたび来るもん
じゃねえや(人生劇場・尾崎士郎)

任侠いろは歌留多

め

目から血を出す くやし
さつらさ ひとは知る
まい ひとは知るまい
人生峠 (人生峠・宮原哲夫)

任侠いろは歌留多

む

昔笑うてながめた月も
今日は 今日涙の顔で
見る

任侠いろは歌留多

(大利根月夜・藤田まさこ)

み

右を向いても左を見ても
莫迦と阿呆のからみあい
どこに男の夢がある

任侠いろは歌留多

(傷だらけの人生・藤田まさこ)

ま

負けて泣いてりゃ 突き
落とされる 無常谷間の
無常谷間の 人生峠

任侠いろは歌留多

(人生峠・宮原哲夫)

を

任侠いろは歌留多

わ

渡る雁がね 乱れて啼い
て 明日はいずこのねぐ
らやら (名月赤城山・矢島寵
鬼)

任侠いろは歌留多

よ

夜が冷たい心が寒い 渡
り鳥かよ おいらの旅は
風のまにまに吹きさらし

任侠いろは歌留多

(旅笠道中・藤田まさこ)

ゆ

任侠いろは歌留多

ゆ

や

任侠いろは歌留多

やがて夜明けの来るそれ
までは 意地でささえる
夢ひとつ (昭和残侠伝 唐獅
子牡丹・水城一狼)

ら ら

任侠いろは歌留多

り り

任侠いろは歌留多

る る

任侠いろは歌留多

れ れ

任侠いろは歌留多

ろ ろ

任侠いろは歌留多

あ あ

任侠いろは歌留多

あ あ

任侠いろは歌留多

あ あ

任侠いろは歌留多

あ あ

任侠いろは歌留多

あ あ

任侠いろは歌留多